

令和4年度第1回練馬区消防団運営委員会議事要録

1 日時

令和4年8月29日(月)13時30分から14時30分まで

2 会場

練馬区役所本庁舎7階防災センター

3 委員長および委員の出欠状況

(1) 出席者

前川委員長、おじま委員、福島委員、上野委員、酒井委員、井上委員、のむら委員、五十嵐委員、櫻井委員、三ツ井委員、青柳委員、加藤委員、榎本委員

(2) 欠席者

小林委員、しばざき委員、國分委員、つじ委員

4 議事内容(要旨)

(1) 開会

【練馬区危機管理室長(司会進行)】

令和4年度第1回練馬区消防団運営委員会を開催する。

(2) 委員紹介

(委員の紹介)

(3) 委員長挨拶

(委員長の挨拶)

(4) 議事

【事務局(練馬消防署警防課長)】

(資料について説明)

本年3月9日、令和3年度第2回練馬区消防団運営委員会が書面会議として開催され、実施のご了承をいただいた消防団員に対するアンケート調査を実施し、その結果を踏まえて、諮問事項に対する答申（素案）について説明。

**【練馬区危機管理室長（司会進行）】**

以上の説明に対し、ご質問、ご意見等は。

**【委員】**

課題1で、現場での実際の訓練というものがコロナ前、コロナ禍ともに圧倒的に少ないのかなという印象を受ける。消火訓練というのは、実際の訓練が基本になると思う。そういったところで、今後、どういう形で実際の訓練を進めていくのか。実際の火災現場で署隊と団の連携をどのように図るのか。消火活動の第一線で、積極的に団が関わるができるのか。消防署の考え方を教えていただきたい。

**【事務局（練馬消防署警防課長）】**

実際に消防団と消防署隊の連携訓練ということで、石神井消防署では消防署の敷地内で訓練を実施し、光が丘消防署では路上で実施をしていると聞いている。練馬消防署でも消防団と連携をして、実戦的な訓練を今後も増やしていくように心がけていきたい。

実際に、震災時に同時、多発的に火災が発生すると、消防職員だけでは対応できない場合があり、遠距離送水も含めて消防署隊と消防団が連携をして活動していくことになる。

**【委員】**

消防団は実際の災害で対応するのと同時に、地域の防災リーダーとしての役割も大変重要だと思う。例えば地域の防災会でB級、C級ポンプなどを活用して、意識高く活動している団体もある。今後、将来に向けて高齢化やB級、C級ポンプの製造が終了するなど、長い目で見るとスタンドパイプというものに置き換わっていくと思う。通常時、消防団員が地域の防災リーダーとして、こういったスタンドパイプの訓練指導ができるようにしたい。現在は、救命講習では消防団として指導している普及員の方もいる。スタンドパイプの使用方を少しでも地域の方に理解していただくという啓発の取り組みも、消防団としてこれから将来に

向けて大切な課題の一つだと思う。スタンドパイプの使用方や普及啓発の考え方と訓練場所をこれからどのように考えていくのか。

**【事務局（練馬消防署警防課長）】**

今、消防団に実際にスタンドパイプが配置されているわけではなく、地域の防災会等にスタンドパイプがあり、現在は地域の町会や自治会の防災訓練などの指導時に消防団も一緒にやっている。

**【事務局（危機管理課長）】**

訓練場所についてですが、消火栓を使用するには課題として、道路の許可（警察署）と水道の許可（消防署）とそれぞれ届出を提出しなければいけない。訓練機会を増やすには、区立施設等で実際に消火栓を開けてスタンドパイプを活用した訓練ができるようにしていきたいと、区としても受け止めている。

**【委員】**

消防団が日頃から地域に入って訓練をする中で、スタンドパイプ等の利用の仕方を幅広く周知できるような役割をこれから担っていく必要があると思う。アンケートの中でも区の防災学習センターをリニューアルして消防団の訓練にも利用できるようにすべきという声もあり、まさにここは必要なところだと思う。消防団が自らの訓練を実施でき、また地域の方に教える側としても、区の防災施設が、幅広く気軽に使えるような施設になっていくことが好ましいと思い要望させていただく。

**【委員】**

アンケートの「どのような消防団員を増やす必要があると思いますか？」で、1位が今、若い世代の団員ということ。私も25歳で入団して、もう既に10年経つが、その間あまりメンバーが入れ替わらない。大学生が入っても、結局4年間なので、新しい人がなかなか入って来ない。若い人を入れるということについて、どういうアイデアをお持ちか。

3位の事業所団員について、事業者にとってのメリットや本人のメリットはあるのか。また、減税や、金融において優遇、入札の参加資格の優遇というものはあるのか。

**【事務局（練馬消防署警防課長）】**

若い人に対しては、YouTube や Twitter、Facebook などの SNS を活用して入団募集を広報していく。また、大学や高等学校で募集活動を行っていく。最近多いのが、東京消防庁に直接エントリーシートで入団を希望する若い団員も増えてきている。

消防団員のいる事業所のメリットは、減税等の制度は確認しないとわからない。(東京都には減税、金融、入札ともに優遇はない。東京消防庁発注工事において消防団協力事業所は、入札時の評価が加点対象)

#### 【委員】

火災シミュレーション教養ということで、タブレットとかデジタル環境の充実拡張を図るということで、例えば防災学習センター等に導入して、常時、放水の訓練ができるようにするにはどのぐらいの費用がかかるか。また、東京消防庁の予算を練馬区に付けてもらえるのかどうか教えてください。

#### 【事務局（練馬消防署警防課長）】

タブレット教材は、防災館のような消火設備を伴う火災シミュレーション設備ではない。現在タブレットは消防団に対して、本団に1つ、各分団に1つずつ配置になっており、これが追加で配置されると分団内でもタブレットを活用して教養を行える。1台のタブレットを大勢で見ることは難しく、例えば3台あれば少人数で1台を見られるようになり、デジタル教育というものが、タブレットを追加することによって充実できる。

予算については現時点で把握していないため、練馬区に何台追加で配置されるかは、具体的にお示しできない。

#### 【委員】

女性の回答データがおおよそ男性の約1割になっているが、この比率は、実際の団員の男女比を反映するものなのか。女性団員の入団を望む声強いが、震災時に女性団員が得意とする役割というのは何か。

#### 【事務局（練馬消防署警防課長）】

今回のアンケートの男女比については、実施の対象者が班長以上ということで、班長以上の男女比になっている。各消防団の団員数は、練馬消防団が257名中、女性が43名。光が丘消防団が168名中、女性が26名。石神井消防団が294名中、女性が36名となる。

実際に震災時は、火災だけではなくケガをしている人や避難誘導をすることになるので、消火活動だけではなくケガをした人の応急救護や避難する人の誘導について女性団員が活躍できる場がある。

**【委員】**

募集広報について、募集相談のチャンス（募集の機会）がどのように提案され、どのような流れで決定しているのか。

**【事務局（練馬消防署警防課長）】**

募集広報については、まず各種イベントで、町会、自治会の防災訓練やお祭りで、消防団に対して警戒の依頼があったときには募集活動をする。これから練馬まつりが10月に予定されており、今回も消防署と消防団の広報ブースを作り、しっかりと募集活動を実施していく。また、消防署に対してイベントへの参加依頼があれば、募集活動を実施していく。

**【委員】**

若い人の募集は永遠の課題である。消防少年団を中学3年まで、その3年後に18歳で消防団に切り替えてもらうという形で、消防少年団から消防団に入団をアプローチすることも必要。

**【事務局（練馬消防署警防課長）】**

消防少年団の子どもたちが中学3年で卒団した時に、その後、消防団への入団を勧めることは、今も積極的にアプローチをしている状況である。

**【委員】**

お一人でも多くの若い子たちに入っていただくことが必要だと思う。若い団員の中には数年で退団される方もいる。逆に消防団員となって、後に東京消防庁の職員になった方もいた。こういう人は数年とはいえ、大切な団員だと思う。

地域の防災リーダーとして、例えば自営業の方が消防団の主力になるというのは、これはもうその通りだと思う。一方で、「我が街は私たちが守る」という大切なことだが、この思いが強過ぎるがゆえに、若いサラリーマン団員の平日の出場率や参加率が低いことを非常に厳しく詰められてしまう傾向もあるのではないか。ここは2つ別々に考え、地域の自営業の方とサラリーマンで入られる若い方、それぞれの生活環境の特性を踏まえて、充実した活動をしていただけるような場を提供することも必要だと思う、環境づくりをしていきたいと思う。

**【練馬区危機管理室長（司会進行）】**

これをもって議事を終了させていただく。

(5) 代表消防団長挨拶

**【練馬消防団長】**

消防団代表挨拶

(6) 事務連絡

**【事務局（練馬消防署）】**

事務連絡

(7) 閉会

**【練馬区危機管理室長】**

以上で本日の消防団運営委員会を終了する。ありがとうございました。